

「同和」のかたよりをただし、  
**町民のくらし応援・福祉充実を**  
日本共産党が2006年度要望書を提出

9日、西澤議員は2006年度に実現・反映することを求め、要望書を提出しました。

要望書によると、「私達庶民のくらしが、リストラ、非正規雇用の増大などで、生活保護世帯が1995年の60万から昨年には104万世帯に増大したことに象徴されるように、ますます展望のもてない状況へと追いやられています」と指摘。小泉首相の「社会的格差」を当然視する無責任を批判。その中で、一番身近な町政は「くらし・福祉・医療・教育中心」の舵取りが切実に求められている、と提起。「同和地域」の枠による特別施策を廃止し、全ての町民のくらし応援、福祉充実などに重点を転換することを切実に求め、28項目にまとめています。(裏面に全事項)

なお、提出には松元たけしさんが同行しました。

**17日議会最終日。どなたも傍聴ができます**

13日は総務常任委員会です。委員長の許可があれば傍聴できます。

17日は9時開会(本会議前に全協が開かれる場合あり):各委員長報告、討論、採決など。常任委員会の改選が行なわれます。

**甲良民報**

2006年2月12日 No313  
発行責任:日本共産党甲良町支部  
代表:西澤伸明 甲良町在土463  
Tel.Fax38-4949

Eメール [info@jcp-nobuaki.com](mailto:info@jcp-nobuaki.com)  
のぶあきホームページ

<http://www.jcp-nobuaki.com/>



議会の機能 (行政監視と町民願い反映)

**本当に果たせるのか! ?**

3委員会を2に削減  
**議会の自殺行為**  
— 審議機能を縮小 —

7日議会で、教育民生常任委員会を解体し、総務、産業建設の2常任委員会に所轄事項振り分ける「常任委員会削減条例」が賛成多数で可決されました。

提出者は田中清勝議員、賛同者は北川豊昭議員、中田要治議員です。

田中議員は提案で、4、5名では審議が充分できず、欠席者がれば委員会の体を成さないなど説明。中田議員は「反対の議員さんは何年議員をやっているのか」など賛成討論

川副議員は「教民4人でも遜色なく審議してきた」などと実例を交え反対討論。反対した議員は大町、川副、藤堂、西澤の各議員。

西澤議員は提出・賛同者の内2議員は「盗水防止決議」に反対など、議会機能縮小に率先してきた事実をあげ、質問、討論(全文は裏面)

偽装、粉飾、官製談合、閣議決定無視、とどまるどころを知らない小泉内閣の失政はいよいよ反国民性をあらわにしています。交付税削減など地方の切捨てが強まる中、甲良町議会がしっかりと町民の願いを代弁することが求められているのではないのでしょうか。

先般行なわれた東近江市能登川区の増員選挙で、トップ当選をはたした藤田淳子さんが、出席式で次のように言われたことが印象的でした。「合併のため福祉や能登川町のいいところをハツサリ切りする行政も行政だが、それを率先し、民主主義をつぶす議員は批判をまぬがれない」と力説。甲良町でもこのような事態が進行しているのではないのでしょうか。

**駐車場の除雪**

次のような要旨のメールが届きました。「先日役場へ行くと、駐車場の雪が隣の田んぼに山になって氷ってしまいました。田んぼの持ち主は何もいわないのでしょうか? 甲良町は農業を振興しているはずなのに、あれでは田んぼが湿気てしまいます。役場も、自分のところのものも自分の領地で処分するのが筋だと思いません。役場は何をやってもいいのか! ! !」

7日開会した議会の全協で、西澤議員は、田の地権者へ承諾はどうか、農業振興をすすめる立場の町役場がこのような行為を平気で行なっているのか、などと質問。担当課長は、道路の除雪でも隣地に落ちるのは町民に協力してもらっている、田の地権者には了解をもらっていない、などと言いつつ答弁。私の再質問に「今

**“町民の願い置き去り”**

依然と議長交代の画策が続いているとの情報。新町長のもとで、決算・予算審議に集中しなければならぬ時期ではないのでしょうか。

後は承諾をもらつくと約束せざるを得ませんでした。農業振興との関係についての回答はありませんでした。

…西澤議員の話:  
私も直接確認すると、

町役場駐車場の雪が隣の田んぼへ無造作に積まれていました。大雪が降った12月、どこの駐車場に行っても自分の敷地の一角に大きな雪の山ができていました。

「役場に町民は協力して当然」との考えが染み付いている印象を強くもちました。正式記録の残らない「全協」だからいい加減答弁をしたのか? ?

スペースのない道路の除雪と役場駐車場とは質が全く違います。地権者にお願ひする初歩を実行できないのであれば、全体の奉仕者の精神を麻痺させている根源を正す必用を痛感した一例です。

## 2006 年度要望書

記

- 1、少人数学級の実現に向けて、県当局に強く要請するとともに、町事業による教員配置を拡充すること。
- 2、修学旅行に対する補助金を増額し、「義務教育無償」を実効あるものにする。
- 3、子ども達の安全を確保するため、ボランティアの中心的役割を果たせる専門的な人員を配置すること。
- 4、町道拡幅・改修工事の地元住民負担を解消すること。
- 5、里道改修工事補助金を増額し、地域間格差を解消すること。
- 6、役場前交差点の久光精肉店・疋田理髪店間の横断歩道を早急に設置すること。
- 7、地方主要道路彦根・八日市・甲西線の役場前交差点からアイム前交差点までの西側歩道を早期に整備すること。
- 8、アイム前交差点の信号機を早期に設置すること。
- 9、集落内、集落間の街路灯・防犯灯を増設すること。【少なくとも通学・通勤者の安全を確保すること】
- 10、国道307号の集落間・集落内の歩道を早期に整備すること。【とりわけ金屋～池寺～西明寺までの歩道を早期に整備すること】
- 11、県道敏満寺・野口線の出町交差点から国道野口交差点までの拡幅・整備工事を早期に完成させるよう関係機関に強く要請すること。
- 12、除雪対策では車道のみならず、歩行者等に配慮し、歩道の除雪も対象に含めること。
- 13、生活道路の拡幅、交差点改良、およびガードの整備(池寺地区ほか)を行うこと。
- 14、福祉センター「香良の湯」に昇る階段に昇降機を設置すること。【足の不自由な方、高齢者等の利用に配慮されたい】
- 15、国民健康保険における高額療養費の限度額を超える患者負担を代理払いなど、一時的にせよ患者負担とならない制度をつくること。
- 16、介護保険法改悪による施設入所の食費、住居費などが全額自己負担となった事に関し、県に対して軽減措置を

強く要請するとともに、町においてその一部でも軽減策をつくること。

- 17、子どもの医療費無料を就学前まで拡大すること。【財政的にも800万円から1000万円程度の負担と試算されている】
- 18、第3子の出産祝い金など子育て支援を充実すること。
- 19、障害者「自立支援」法にともなう本人・家族負担の増大に対し、何らかの軽減を行なう「支援制度」をつくるよう県に要請するとともに、町でも対応すること。
- 20、福祉タクシー補助チケット制度をつくること。【高齢者の気軽な足の確保は経済的支援もさることながら、自立を促進し、健康保持にもつながる】
- 21、もえるゴミ収集の改善。当面週2回収集実施と字内集積場を増設すること。
- 22、公共下水道受益者負担金、固定資産税、消防施設・道路改修地元負担金などの不公平を直ちに解消すること。
- 23、同和研修、人権講習等をやめること。【行政が直接、間接を問わず取り仕切る「同和」や「部落解放」を冠した研修および行事は廃止されたい】
- 24、コメおよび大豆や野菜生産農家の支援策を強化すること。
- 25、政府の指導いりなりの品目横断的経営安定対策、コメ政策改革推進対策などをもとにした営農組合への指導・介入を行わないこと。【一律的な基準の押し付けはかえって字内の矛盾を收拾できないものになっています】
- 26、現在空き家となっている町営住宅に関し、建て替え計画が実行されるまでの期間限定で、条例に基づき希望者の入居を受け付けること。
- 27、特別職給与の適切な見直しを行なうこと。【少なくとも20%程度の削減を】
- 28、水道料金など公共料金の領収書に記載されている銀行等の口座番号を伏せるなど配慮すること。【プライバシー保護の観点から】

なお、【 】は補足説明文です。

以上

「常任委員会削減条例」に対する西澤議員の質問、討論の要旨は次の内容です。

### 不正やゆがみをただす機会をつぶしてきたのは誰か！！

【質問】

3から2に減らす目的は？

教育民生をなくして他の2つの委員会に所轄を振り分けるのはどうしてか。現在教育民生(田中議員は教育民生所属)は予算決算以外でも他の委員会と比べて比較敵良く開催している方ではないのか？

所轄事項が増えるのに審議時間が同じままだと、割愛、縮小されるが、このデメリットをどのように改善するか？

政策的判断は意見がわかる立場だが、議会運営にかかわることは議員の合意、全員一致が望ましい。先の全協での話し合いも、合意には至らなかったが？

提案議員は議員定数では多いので減らせと言いい、委員会では少ないと体を成さないと言う。矛盾していないか。本当に議会の機能を高め、活性化させる目的の提案なのか大変疑問に思うが？

【討論】

まず、提案の理由に道理がなく、スジが通らないこと。提案者・賛同者の内の2人は現在持っている議員の権限を發揮しようと盗水防止決議や町有地の不法占有問題調査の決議に反対しました。また内1人は以前の産業建設常任委員会で「このまま何も質問がないとアカンので」と神聖で議論の府である議会を軽々しく扱う不真面目な態度を傍聴席からしっかり見ました。反省の弁は未だに聞いていません。住民の立場で議論をつくす態度とは無縁に思う。

委員を増やしても議員の基本的努力が変わらなければ議会改革にはならない。教育民生関係は内容も多く、町民と密接な関係。目が行き届かず、集中できなくなる。

議会運営の改革は全員一致が望ましい。

西澤議員は、反論のある議員も住民に開かれた議会改革をすすめるには何が必要か、町民規模の議論を呼びかけ討論をしめくりました。